

今後の図書館スケジュール（令和3年8月現在）《資料 1-1》の説明

<p>基本構想</p>	<p>当基本構想は令和3年度までのスケジュールとなっており、今後構想全体の見直しを考えていますが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、基本構想の個別サービスの柱の一つである「子育て支援サービス」の中心的な役割を担う予定の文化複合施設整備事業の凍結が決定し、不確定な要素がある中、構想全体の見直しを行うことは万全なものではないと考えております。</p> <p>整備事業の凍結期間を2年程度と想定し、新構想の策定起案も考慮した上で、当基本構想のスケジュールを令和4年から6年までの3年間延長し、施策に取り組んでまいります。また、延長したスケジュールの詳細については、次回の図書館協議会（1月開催予定）でご報告いたします。</p>
<p>文化複合施設</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、税収の大幅な落ち込みも予想される中、財政的余裕を確保していく必要があったため、令和2年9月、一旦凍結となりました。</p> <p>令和4年の秋頃の再開をめざしたいと考えていますが、具体的な事業再開については、現時点で決まっておりません。今後の歳入環境の状況等によっては事業再開のスケジュールが変更される可能性もあります。再開される場合は速やかに協議会へご報告いたします。</p>
<p>移動図書館</p>	<p>車両のあり方について検討し、それと並行してステーションのスポット整理やリージョンセンターとの連携を進めていくことで、移動図書館の今後のあり方を検討していきます。</p>
<p>リージョンセンター等の活用</p>	<p>社会教育課と図書館、リージョンセンターを運営する指定管理者株式会社ビケンテクノ担当者と数次にわたり打ち合わせを実施しました。連携先となる楠根リージョンセンターと布施駅前リージョンセンターについて、現地のニーズを踏まえ前向きに事業を進めることとしています。</p> <p>現在、以下の2点について、実施の細目を協議しています。</p> <p>1. 出張図書館</p> <p>9月から、月2回2時間程度、2箇所のリージョンセンターを訪問し、図書館サービスを提供します。</p> <p>【実施場所】楠根リージョンセンター（2階ロビー）、布施駅前リージョンセンター（ギャラリースペース）</p>

	<p>※今後は、他のリージョンへも拡充を図っていく予定。</p> <p>【内容】◆資料の貸出（一般書・児童書併せて100冊程度）◆予約資料の引渡（貸出含む）◆新規・再発行の利用カードの申込/カードお渡しまで（当日中は仮登録状態）◆予約・リクエストカードの受付◆インターネット利用の新規申込◆電子図書館の利用案内◆読みきかせなどのイベント開催</p> <p>【対応要員】運転手を含め、2～3名</p> <p>2. リージョンセンター図書コーナーの充実</p> <p>9月を目途に、市内リージョンセンターに図書館より除籍された書籍を提供し、図書の有効活用を図ります。</p> <p>【実施場所】楠根リージョンセンター、布施駅前リージョンセンター</p> <p>※今後は、他のリージョンへも拡充を図っていく予定。</p> <p>※資料の活用については、リージョンセンターと調整</p> <p>【内容】第I期の配本として、大蓮分室・自動車図書館から371点を除籍し、提供。</p>
<p>ひがしおおさか 電子図書館</p>	<p>令和3年4月1日より、新たな図書館事業として「ひがしおおさか電子図書館」サービスを開始しました。詳細については「資料3-1」をご覧ください。</p>
<p>学校図書支援事業</p>	<p>6月18日開催の「図書館教育研修」（オンライン）に永和図書館長が登壇し、市立図書館と学校図書館の連携についてご説明しました。学校への団体貸出や図書館見学、授業に必要な資料の提供、書架の配列や購入資料や除籍資料の選定、展示の仕方、本の修理方法、書誌の作成などといったテーマについても、助言と支援が可能なことをお伝えしました。</p> <p>あわせて、4月から開始した電子図書館サービスを学校で活用いただくにあたっての留意事項等について、ご説明をさせていただきました。電子図書館の学校連携については、「資料3-2」、「資料3-3」をご覧ください。</p> <p>この内容は、7月9日に開催された学校司書連絡会でもご説明をさせていただき、新たに各学校に赴任される学校司書の方々に気軽に市立図書館が活用いただけるようお伝えしました。本連絡会を契機に、市立図書館と学校図書館の連携を深めてまいりたいと考えています。</p> <p>また、市立図書館からのご提案に沿って、西堤小学校4～6年生において、急遽「調べ学習」に取り組んでいただくことができました。7月1日には、5年生2クラスの授業に「出前講座」を行い、「調べ学習」の基本を子どもたちに学んでいただくことができました。</p>

	<p>7月1日からは、藤戸小学校の3年生2クラスで取り組まれた「世界の民話・昔ばなし」のあらすじづくりを永和図書館内に設置し、広く市民の方にご覧いただきました。図書館を起点にケーブルテレビの取材も実現し、子どもたちにとっても大きな動機づけになったと喜んでいただきました。</p> <p>その他、樟蔭学園の中学生が取り組む「花育プロジェクト」についても支援を行いました。</p> <p>(参考)・東大阪経済新聞(7/13)、Yahoo!ニュース(7/13)</p>
<p>学校図書館司書配置</p>	<p>8月17日現在17名の配置が完了しており、今後9月1日配置予定の1名を合せて、18名の配置となります。募集定員19名の配置完了をめざして引き続き募集を行っていきます。</p> <p>学校図書館司書は、全76校(小・中・義務教育学校)において、学校図書館司書1人につき週に1校ずつ勤務という形で決まった4校を分担して受け持ちます。中学校区を基本としますが、学校間の距離等から複数の中学校を担当したり、中学校の受け持ちがない司書もあります。</p>
<p>第2次東大阪市子ども読書活動推進計画</p>	<p>令和2年度分の実施について、6月に事業調査・集計をおこないました。調査結果については、《資料2》《資料2-1》をご覧ください。</p>
<p>【4月以降の取組について】</p> <p>市立図書館では、4月1日より「ひがしおおさか電子図書館」(以下「電子図書館」という。)サービスを開始いたしました。日本最大級の蔵書(約34,000点)を備えており、24時間いつでも、お持ちのパソコン、タブレット端末やスマートフォンから電子書籍を読むことができます。</p> <p>これに伴い、GIGAスクール構想により市立小中学校(義務教育学校を含む)の全児童生徒(約31,000人)に配付されているタブレットで、電子図書館を利用できるよう、4月以降、学校連携の目玉として作業を進めており、夏休みの本格的な活用を目指して関係所属との調整、全てのタブレットへの電子図書館IDの付与、学校からの問合せ対応等、かなりの比重を掛けて子どもたちが学校や自宅等でより気軽に書籍に触れ合えるよう、読書環境の充実を進めてきました。</p> <p>その他、緊急事態宣言による臨時休館中においては、蔵書点検、マークの入替、見出しの充実や別置シールの付与など、使いやすい書架の整備を順次行っており、永和図書館では絵本コーナーのエリアの見直しのほか、机や椅子の配置換えを計画するなど、利用者の方により安心して使いやすい環境を提供できるように整備を行いました。</p> <p>コロナ禍における諸般の事情により思うように進捗が図れなかった施策・事業もございますが、今後も引き続き取組を進めていきますので、協議会委員の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。</p>	